

平成  
31年度

# 施政方針・当初予算

将来を見据えあゆんだ30年間

平成というひとつの時代が終わり、5月より新たな時代が始まるうとして

高浜市にとってどんな意味を成す30年間であったかを振り返ると、平成初頭では、かわら美術館やいきいき広場、公共下水道の供用開始、鬼みちの完成など、今の市の文化や福祉の拠点、ライフラインなど、暮らしを豊かにし支える都市基盤を整備してきました。高浜市総合サービス(株)やまちづくり協議



高浜市長 吉岡初浩

新たな時代を切り開き、その先の未来へとつなげていく

めは0.7%程度でしたが、現在では約7.3%にまで上昇しました。「まち」も「ひと」も平成の約30年の間で大きく変化をしています。

## 時代の変化に対応するまちに

平成は、バブル経済の崩壊に始まり、多発する自然災害や人口減少時代への突入といった不安要素に包まれた一方、高齢者を社会全体で支える制度の確立、また「IoT」や「AI」、未来への希望を感じるような技術が急激な進歩を遂げてきた時代でもありました。

大変なスピードで変わりゆく時代に私たちは生きています。少し先の未来、今までもっと早いスピードで世の中が変化していく。山積する行政課題や新たに発生する行政需要に対し、従来の考え方・仕事のやり方にとらわれることなく、将来を見据え、挑戦し、今するべきことを着実に実行していくことが、いつまでも住み続けたいまちへとつながっていくと信じます。

## 平成31年度当初予算策定

新たな時代を切り開き、その先の未来へとつなげていくための平成31年度予算編成方針を「新しい時代にチャレンジする予算」とし、本市の将来像を見据え、「事業総点検及び効率性の視点」「将来ビジョンを見据えた戦略的視点」「重点取組事項への財源配分」という3つの基本的な考え方を掲げ編成しました。「重点取組事項」とは、徴収率の向上・公共施設総合管理計画の推進・情報発信の強化・行政内部事

務の省力化・安心な子育て環境・ICT教育・教育環境向上・企業誘致・産業振興・防災力強化・地域包括ケアシステムの構築につながる事業です。

## これからの高浜市のために

高度経済成長期を経て我が国は経済的に豊かになり、デジタル技術の進歩により、私たちは便利な生活を享受するようになりました。一方で、地域や社会のためにというよりも「個」や「私」を優先する考え方が強まり、一昔前であれば地域社会における相互扶助の仕組みのなかで解決されていた問題を個人が抱えるなど「つながり」の希薄化が問題視されるようになりました。

今後ますます社会構造や生活スタイルが変化していくなか、10年先、20年先も「住み続けたいまち」でありつづけるため、全庁一丸となって邁進しますが、行政だけでは、まちの課題、時代のもたらす課題に対応するには限界があります。

地域、事業者、関係機関、議会、行政、そして市民の皆さん一人ひとりが『お客さま』ではなく、それぞれが『まちづくりの主役』として輝く。そんな「人」や「想い」こそが、課題解決の唯一の手段であり、将来世代、未来の高浜市へと引き継いでいくべきことであると考えております。

※本文は市議会3月定例会で行った施政方針演説を要約したものです。